Press release
筑摩書房
www.chikumashobo.co.jp

【新刊情報】2026 年 10 月吉日

「あだ名禁止」の学校が増える今こそ、考えたい。
なぜ、あだ名は親しみにもなるし、暴力にもなるのか？

『あだ名の正体　――なぜうれしくて、なぜ傷つくのか』
川上徹也　ちくまプリマー新書

学校のあだ名から「りくりゅう」「マック・マクド」まで、
人気コピーライターが呼び方に隠された人間関係を読み解く

「友だちをあだ名で呼んではいけません。名字にさん付けで呼ぶように」

そんなルールを設ける小学校が増えています。ＳＮＳでは「息苦しさの象徴」「理解できる」の賛否両論が渦巻いています。あだ名は、仲間意識を生み、お互いの距離を縮める言葉である一方、相手を深く傷つける暴力になることもある。ときには、権力者を笑い飛ばす武器にもなります。さらにあだ名は人間関係だけでなく、私たちとモノとの関係にも深くかかわっているのです。

本書は、あだ名禁止の賛否を決める本ではありません。あだ名のよしあしを決めるのは、呼ぶ側のセンスではなく、呼ばれる本人の「同意」だと考えます。

コピーライターの著者が、あだ名を入口に、人と人との距離、同意、権力、そして名前が持つ不思議な力を読み解きます。

★あだ名は、学校の中だけの話ではない

有名人を「キムタク」「ガッキー」「りくりゅう」と愛称で呼ぶと親しみを感じるのはなぜか。なぜ恐い先生や権力者にひどいあだ名をつけたくなるのか。ペット、ぬいぐるみ、AI に名前をつけたくなるのはなぜか。なぜ「マクドナルド」が「マック」「マクド」と呼ばれるようになったのか。呼び方には、私たちが相手と結びたい関係が表れています。

★中高生だけでなく、大人にも読んでほしい一冊

「さん付け」は壁なのか、相手を尊重する手すりなのか。「ちゃん付け」は親しみか、子ども扱いか。あだ名で呼び合う会社は関係が変わるのか。学校・家庭・職場などで毎日使う「呼び方」を問い直す一冊です。

あだ名について考えることは、人と人との距離について考えること。

川上徹也（かわかみ・てつや）

コピーライター・日本語探究家。大手広告代理店勤務を経て独立。東京コピーライターズクラブ新人賞、広告電通賞、ACC 賞など受賞多数。ネーミングのプロとして、数多くの商品やサービスの「名前」や「呼ばれ方」を考案してきた。日本語の魅力を掘りおこし、世界へ伝えていくことをライフワークとしている。著書多数。海外にも数多く翻訳されている。





著者へのインタビュー、寄稿、書評、書籍紹介などに対応します。学校の「あだ名禁止」問題、呼び方と人間関係、有名人の愛称、商品やサービスのネーミングなど、さまざまな切り口での取材・執筆・記事化が可能です。

目次

はじめに　その呼び方は、なぜうれしくて、なぜ傷つくのか

第１章　呼び方には、人と人の「関係」が表れる

校長先生の名前を覚えていますか？／呼び方が変わると関係が変わる／「さん」は壁なのか、手すりなのか／「ちゃん」は親しみか、子ども扱いか／あだ名は、仲間だけの合言葉になる／あだ名はどこから生まれるのか／①名前を料理したあだ名／②特徴をとらえたあだ名／③エピソードを刻んだあだ名／あだ名は、いちばん身近なネーミング／あだ名が商品名と違うところ

第２章　あだ名のよしあしは、「同意」で決まる

黙っていることも、笑っていることも、同意ではない／テレビの「いじり」と、教室の「いじり」／「いいよ」が本物になるとき／「いいよ」には、範囲と期限がある／ほめるあだ名からも、降りていい／あだ名が、役職の壁を低くすることもある／いいあだ名に必要な三つの自由／呼ばれる本人は、どう断ればいいのか／まわりにいる人にも、できることがある／呼ぶ人は、「そんなつもり」で終わらせない／ミサキは、どう伝えたのか／あだ名を学ぶことは、距離を学ぶこと

第３章　あだ名は、上を向くと武器になる

廊下を歩く「校則」／あだ名は、名札にも見出しにもなる／矢印の向きが、意味を変える／『坊っちゃん』の狸と赤シャツ／民衆が権力者につけた見出し／芸人がつけるあだ名は、なぜ痛快なのか／人を低くするのか、台座を低くするのか／それでも、武器は選んで使う

第４章　会ったことのない人を、なぜ愛称で呼ぶのか

遠くにいるから、愛称で呼べる／愛称は、「名札」より「見出し」に近い／あなたは「推し」を、何と呼んでいますか？／愛称が、親しさを先につくる／愛称は、大勢が入れる合言葉になる／愛称には、時間が重なっていく／親しさが、本人を閉じこめることもある／遠くにいる人を、言葉で近くへ連れてくる

第５章　返事をしないものに、名前をつける

呼び方が変わると、見る目が変わる／名前は、「種類」を「この一つ」に変える／名前なのか、あだ名なのか／返事をしないのに、なぜ名前をつけるのか／名前をつけると、モノが物語の一部になる／同じものを買っても、同じ相手にはならない／名前をつけると、自分も物語の登場人物になる／返事をするものに名前をつけると、何が起きるのか／体を持つＡＩは、こちらに向かってくる／心があるかどうかは、だれにも見えない

第６章　商品や作品のあだ名は、誰がつけるのか

短くなったぶんは、関係が補う／客は、会社が決めた名前を呼び直す／短くなる店名　短くならない店名／略されるコンテンツ名はヒットするのか／略されなくても、ヒットする名前／人々がつけた、商品のあだ名／会社が、あだ名を先につける／企業は、関係まで先回りする／人のあだ名は、人々だけのものにならない

おわりに

ちくまプリマー新書／176 頁／定価 990 円（税込）　発売予定日：11 月 11 日（11 月 9 日配本）

著者インタビューや記事執筆のご依頼等、ぜひご検討ください！

本書につきまして、書評その他企画としてご検討をお願い致したくプレスリリースを送付させていただきます。
ご掲載いただける場合にはご連絡下さいますと幸いです。何卒よろしくお願い致します。

【本件に関するお問い合わせ／見本書籍希望　は下記まで】
株式会社筑摩書房 営業局 宣伝プロモーション部 担当：渡部（watanaber@chikumashobo.co.jp） TEL:03-5687-2683 FAX:03-5687-2685